2003.10.30
大阪日日新聞

〝リサイクル〟親子で考える

たい肥使った農園で
サツマイモ掘りに奮闘

豊中市

豊中市立子育て支援センター（豊中市中桜塚二丁目、長谷川真知子所長）は二十七日、市内の就学前の幼児とその父母ら四十組約百人を対象に、生ゴミなどのたい肥で育ったサツマイモの収穫体験を箕面市萱野五丁目の農園で行った。参加者たちは、夢中になって土を掘り返し、次々に見つかるイモに歓声を上げていた。

生ゴミなどのリサイクルを通して循環型社会の実現を目指す豊中市の市民グループ「花と緑のネットワークとよなか」（高島邦子代表）とタイアップ。土に触れる貴重な機会を提供しながら、子どもたちにリサイクル問題についても目を向けてもらおうと開かれた。

同グループが管理している農園は、学校給食の生ゴミや不要になった街路樹の枝などで作ったたい肥「とよっぴー」を使用。無農薬で作られたサツマイモは見事に実を付けており、収穫体験する市民を初めて受け入れた。

参加者たちは土にまみれながら、イモ掘りに奮闘。初体験に胸躍らせた幼児たちはもちろん、父母らも童心に帰って熱中した。「大きなイモが取れた」と誇らしげな幼児たちや、大小さまざまなイモを目にして「こんなにも大きさが違うのね」と驚く母親の姿も。

長谷川所長は「自然との触れ合いを参加者たちが喜んでくれ、大成功」と笑顔。また、高島会長は「体験作業の機会を増やし、食べ物の大切さについて理解を深めてもらいたい」と話していた。（寺田英祥記者）

夢中でサツマイモ掘りをする幼児と保護者ら